

対馬の熊本漁民

現地
報告

(下)

操業が守られている
という。

○対馬では「天草より水俣」の方が有名な水俣病が世間で騒がれたせ

○対馬はスルメでもっている島。空地という空地はいたるところスルメだらけ。西泊では賛金加工にしているが、中部対馬の久須保では現地の間屋と契約して、いわゆる買い取り加工になっている。そこで間屋側が一方的に値段を決めてきても文句もあまりいえないわけだ。

そのうえ鮮魚の値段がよいときでも間屋が鮮魚として出荷するのをなかなか認めてくれない。こんなところから不満の声がおこっている。島原あたりからきている漁船は家族ぐるみ島に渡り、加工できるだけを釣ってくれば家族で全部加工から向からやってしまふ。子供も対馬の学校に入れるといった具合で、

現地の希望

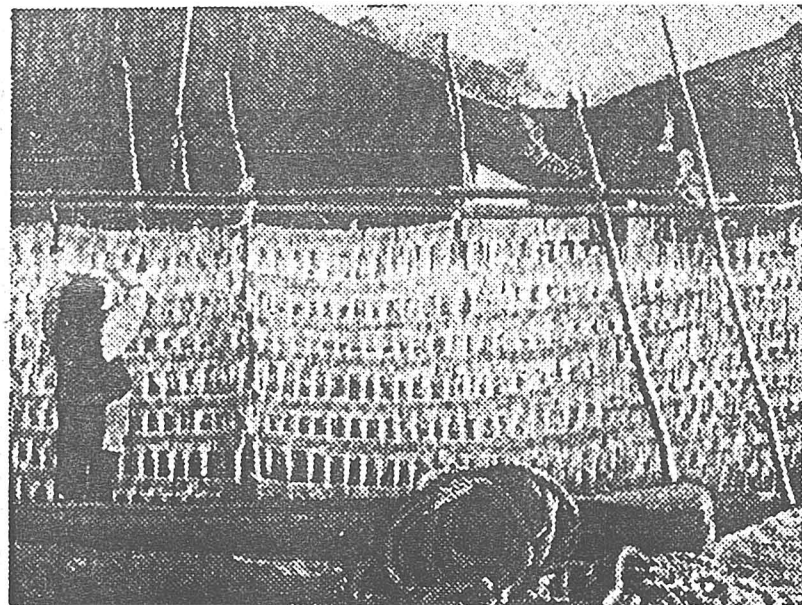
熊本としても学ぶところが多い。うまき多賀での魚船が比較的に多い。

○久須保では西泊が基地から一四・五キロの沖合を漁場にして、いるのに比べ大部遠くの沖合に出なくてはならないのがマイナスになっている。西泊の熊本漁民は船団が二隻も入っている。そので地元の家を一軒借りて生活しているが、あまり船団がおおすぎても加工能力などでむしろ不利な点も目につくようになった。激励にやってきた宮川大漁協長も、「一船団十隻が理想的だ」といっていた。

援助のある実の欲しい 問題はあとの加工、販売

○天草郡電ヶ岳町では森町長が町内三漁協長と同席、わざわざ来島して現地漁協に不慣れな地元船団の面倒を頼んで回った。がたしかに対馬出漁にもっとも

しても現地の話では淡路島からの船団は生活費の面倒を町がみてはどうか」と親切な誘いをうてくれているというし、また山口でも使った油代を補助するといった積極的な援助方法をとっているところがあり、熊本県でも「出漁奨励」のかけ声だけになっていた。ともかく水産庁が計画終わらないよう積極的におし進めるための施策がのぞましい。集団出漁は現地とのまきつも全



空地はいたるところスルメ干しの風景がみられる

力を入れているのは電ヶ岳町だ。こんどの船団出漁にさいして一船三万円当たりの支度金を町条例で出すといった張切り

ようで外海での操業意欲もなかなかさかんだ。零細規模の沿岸漁業を集団漁業にもっていくためにはこれからのいろいろな問題にぶつかるわけだが、それに

○対馬の漁師は半ば李ライン反対側の佐須奈から樟崎に回るところから小船で二十分もゆくと李ラインに出してしまふほど近い。李ライン近くで操業する漁船は長崎県がとくに小型受信機をつけさせ陸上基地とたえず連絡をとって操業している有様。巡視船の警戒を無視してライン内に入りすぎたら例の「大塚捕獲」宣伝というヤツで野放しなく捕獲されてしまうので別に自覚

のた。然なく表面はスムーズにいったるようだが、販売ルート問題では県も漁協ももっと改善の道を考えてやらねばつぎの出漁が安心してできないだろう。加工スルメを農協や県を通じて販売してもらえたらという現地の希望もせひかなえてもらいたい。漁場をつしな、生きるために五斗そこそこの小船で出かせぎにやってきている対馬の熊本漁民をいま見殺しにしてはいけな